

海事プレス掲載記事のご紹介

HOME > ニュース > 造船・船用

2023年9月25日

統合安全情報表示システムを展開 日本船用エレクトロニクス、警報発報など迅速に通知

日本船用エレクトロニクスは、火災探知装置をはじめとする船内の安心・安全に関する情報を視覚的に表示するグラフィカルセーフティシステム「NHE CONNECT」を開発し、展開を図っている。警報の発報などインシデント発生をいち早く通知し、発生場所の特定や初期消火活動、乗組員の早期の避難といった対応を支援する。今後、対象となる機器の情報を追加し、定期的に機能のバージョンアップを図る。新造船と既存船の計3隻で導入実績も出ており、林安男社長は「今後3年間で100隻への導入を目指したい」と語る。

船舶の火災探知分野で、具体的な火災発生地点などを可視化するニーズが高まっていることを受けて、グラフィカルセーフティシステムとして、「NHE CONNECT」を開発した。

NHE CONNECTは、同社の火災探知システムを採用する船舶で、船内ネットワーク環境さえ整っていれば、新造船、既存船ともに利用可能だ。船上での利用に加え、陸上からも同じ画面を見ることが出来る。ウェブブラウザで閲覧できるため、ソフトウェアのダウンロードは不要。乗組員が手元で確認できるよう、パソコンやスマートフォン、タブレット端末での利用にも対応した。また、言語切り替え表示機能で、日本語にも対応でき、カスタマイズで多言語対応も可能だ。

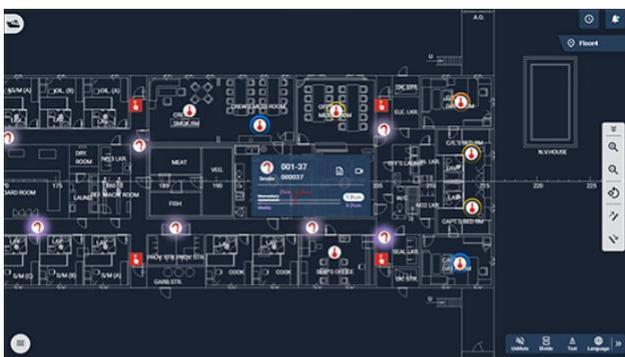
NHE CONNECTは、船舶の図面上に煙探知機や熱探知機などをマッピングし、アイコンで表示する。火災警報の発報時は画面が赤色、機器の故障時は黄色に表示され、該当箇所も船舶の図面上に示されるため、直感的にインシデントを把握できる。

通常時にも、画面上のアイコンをクリックすることで、探知機がセンシングしている値をリアルタイムで把握できる。また、例えば煙感知器の汚れの度合いや、熱探知器で探知した温度の度合いに応じてアイコンの色合いを変えるなど、これら装置を日常的に可視化できる仕様になっている。

さらに、監視カメラとの連動も可能で、例えば火災発生時に、現場まで行かずとも、発生場所の状況を、カメラ映像で確認できる。このほか、画面上に任意のアイコンを置くことも可能で、機器の取扱説明書や点検の履歴簿といったファイルを紐づけできる。

既にも実績も出ており、大東通商グループのニュー SHIPPING の新造ケミカル船1隻と、宇和島運輸と新日本海フェリーの既存カーフェリーそれぞれ1隻の計3隻に導入済みだ。顧客からのフィードバックなども反映させながら、今後、半年に1回を目安にNHE CONNECTのバージョンアップを図っていく方針。

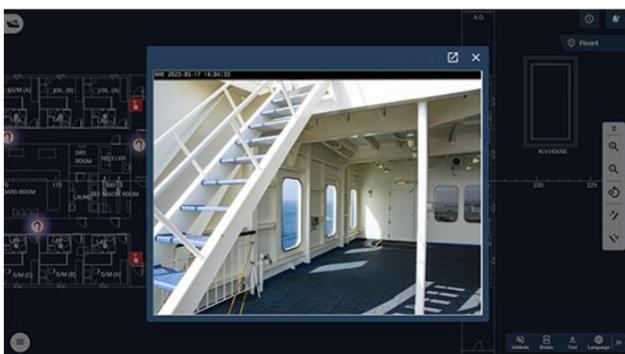
現在、火災探知装置以外の装置の情報を表示することも検討しており、ガス検知器メーカーの理研計器とともに、ガス警報器の情報をマッピングすることを検討している。今後、ガス警報器に限らず、さまざまな装置でセンシングした情報をNHE CONNECTに追加していくことも見込んでおり、日本船用エレクトロニクスの上谷和久常務取締役は、「当社のNHE CONNECTをプラットフォームに、さまざまな機器のIoT化や情報の可視化を進められると期待している。他メーカーとの『共創』で、ビジネスを展開していければ」としている。



NHE CONNECTの表示画面。通常モード



火災警報の発報時は画面が赤色に表示される



監視カメラとの連動も可能